

地域医療支援病院名称承認に係る審査表

1 医療法人財団荻窪病院

病院の概要	
所在地	杉並区今川三丁目1番24号
開設年月日	昭和26年1月30日
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内科、消化器内科、外科、整形外科、心臓血管外科、消化器外科、脳神経外科、小児科、眼科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、リウマチ科、放射線科、麻酔科、救急科
重点医療	救急医療、心臓循環器医療、がん診療、血友病診療、外傷や筋骨格系疾患への手術医療
指定等	東京都指定二次救急医療機関、東京都災害拠点病院、東京都CCUネットワーク参画施設、東京都急性大動脈スーパーネットワーク緊急大動脈重点病院、エイズ診療拠点病院、基幹型臨床研修病院
病床数	252床（一般病床 252床）

審査項目	申請病院の実績
① 紹介患者に対して医療を提供することとし、次のいずれかに該当すること。 ア 紹介率 80%以上 イ 紹介率 65%以上、かつ逆紹介率 40%以上 ウ 紹介率 50%以上、かつ逆紹介率 70%以上	○ 平成28年度の紹介率 60.4% (A/B) ○ 平成28年度の逆紹介率 72.4% (C/B) 紹介患者数 10,561人(A) 初診患者数 17,490人(B) 逆紹介患者数 12,669人(C)
② 病院の建物、設備、器械等を地域の医療従事者の診療、研究等に共同利用できる体制を整えていること。	○ 共同利用の範囲 ⇒ 病床、検査機器等 ○ 共同利用件数 ⇒ 高額医療機器利用 2,546件（平成28年度） ○ 共同利用に関する規程 ⇒ 医療法人財団荻窪病院 登録医制度運営規定
③ 常時、重症の救急患者に対し医療を提供できる体制を確保することとし、次のいずれかに該当すること。 ア 救急自動車搬送患者数が1,000以上 イ 救急自動車搬送患者数が救急医療圏（二次医療圏）人口の0.2%以上	○ 医療従事者の体制（夜間・休日） 医師4名、看護師6名、薬剤師1名、放射線技師1名、検査技師1名 ○ 診療施設 救急処置室、集中治療室、血管撮影室、CT室、MRI室、一般撮影室、X線TV室、内視鏡室、手術室、心電図室、超音波室、中央検査室 ○ 平成28年度 救急自動車により搬送された患者の数 4,728人

審査項目		申請病院の実績
④	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することとし、年間12回以上の研修を主催していること。	平成28年度の研修会実績 ○ 講演会、勉強会、情報交換会等 20回 ○ 地域医療機関からの参加者 801名
⑤	200床以上の病床を有すること。	病床数 252床
⑥	集中治療室、化学・細菌・病理検査施設、病理解剖室、研究室、講義室、図書室、医薬品情報管理室、緊急用又は患者輸送用自動車有すること。	集中治療室(1室、8床)、化学検査室1室、細菌検査室1室、病理検査室1室、病理解剖室1室、研究室1室、講義室1室、図書室1室、医薬品情報管理室1室、患者輸送用自動車1台を有している。
⑦	紹介しようとする医師・歯科医師に診療及び病院の管理運営に関する諸記録を閲覧させる体制を整えていること。	地域連携室において、閲覧できる体制をとっている。
⑧	学識経験者からなる運営委員会を設置し、地域における医療の確保のために必要な支援に係る事項を審議すること。	地域医療支援病院運営委員会を設置している。 (委員構成) 地元地区医師会代表 2名 地元歯科医師会代表 1名 地元薬剤師会代表 1名 地元行政機関代表 3名 学識経験者 2名 内部委員 4名 計 13名
⑨	患者からの相談に適切に応じられる体制を確保すること。	相談窓口、相談室を設置し、常勤の相談員を3名配置して相談業務を行っている。

地域医療支援病院の承認にあたっての考え方

区西部医療圏（新宿区・中野区・杉並区）は、新宿区に特定機能病院が集中し、医療圏の東側においては医療資源に恵まれている一方、西側では、人口に対しての医療資源が不足している状況です。医療圏の西端に位置する杉並区は、人口 57 万人のうち約 11 万人の高齢者を抱える一大住宅都市ですが、近隣の自治体も含め、3 次救急を担う特定機能病院が存在しないため、区外への救急搬送件数が年間 1 万人を超えております。このため、地域住民、医療機関・介護施設にとって、近隣の急性期病院の診療機能向上への期待は益々高まっているものと考えております。

弊院は、これまで医療機能の役割分担を念頭に「地域完結型医療」を目指し、医療施設・設備の共同利用や地域の医療従事者へ向けた研修会・情報交換会等を開催し、地域医療機関との顔の見える連携を行なって参りました。また、東京都 CCU ネットワークへの参画や東京都急性大動脈スーパーネットワークの緊急大動脈重点病院指定を始め、緊急吐下血、頭部を除く多発外傷、産科救急などの救急医療においても年間 4,700 件の救急搬送に対応しております。また、急性期病院として、年間 4,600 件の手術（うち全身麻酔及び脊椎麻酔は 2,800 件）を施行しており、救急疾患だけでなく、がん診療、心疾患を始め、高度で専門的な医療を総合的に提供する体制づくりに取り組んでおります。また、在宅医療との連携強化にも取り組んでおり、本年 4 月に訪問診療を行う部門を新設いたしました。当該部門では、急性期を過ぎた入院患者に早期に退院して頂き、弊院の訪問診療医が患者の自宅で症状が落ち着くまで診療し、その後、地域の在宅医療を担う先生方へスムーズに移行する役割を担っております。

この度、地域医療支援病院を申請するにあたり、脳卒中や頭部外傷等への入院診療体制を整備し、救急・急性期医療の拠点として更なる機能強化を図るため、院内に小手術室とリカバリー 5 床を兼ねた「日帰り手術センター」の新設を計画しております。これにより、全身麻酔手術を要する入院患者の受け入れ拡大を図り、医療圏以外からの搬送を含めた救急医療体制の充実に更なる貢献をしていく所存です。また、医療施設・設備の共同利用や地域の医療従事者、並びに介護従事者への研修会の開催にもより一層力を入れると共に、地域の在宅医療との連携強化、並びに介護施設との感染管理ネットワーク構築にも積極的に取り組み、地域の中核病院として、「地域完結型医療」の中心的役割を担い、より質の高い地域包括ケアシステム構築に貢献する覚悟でございます。

平成 29 年 6 月 23 日

医療法人財団 荻窪病院
病院長 村井 信二